

甲状腺外科草子 63

ちょっと気取った映画 1：大監督

杉野 圭三

最初に映画館に行ったのは幼稚園のころと記憶している。「明治天皇と日露大戦争（1957）」を五日市商店街の映画館（五日市有楽座）で見た記憶が鮮明に残る。今は無きこの映画館に小学校の生徒全員で「キングコング対ゴジラ（1962）」を見に行ったこともある。



五日市有楽座での思い出の映画 同跡地

歴史、小説、映画に対する偏った嗜好はこの幼児体験が影響しているのであろうか？

今回取り上げる映画はあくまでも対外的要素を考慮した「気取った」のものであり、私の本当に大好きな映画とは限らないことを断っておく。

世界の大監督たち



W・ワイラー F・キャブラ J・フォード



B・ワイルダー D・リーン 黒澤明

上記の誰もが認める大監督たちの作品から「気取った」映画を挙げる。



我らの生涯の最良の年（1946）

復員兵の物語でアカデミー作品賞を受賞。名作映画ランキングで必ず上位に入っている。ウィリアム・ワイラー監督（1902- 1981）ら

しい真面目な作品。3 回のアカデミー監督賞受賞した大監督で「ローマの休日」、「ベン・ハー」など多くの有名作品がある。

スミス都へ行く（1939）

ふとしたことで上院議員に選出された新人の物語。主人公が最後に行く大演説で有名となった。ジェームズ・スチュアートと秘書のジーン・アーサーのコンビが良い。

フランク・キャブラ監督（1897- 1991）もアカデミー監督賞 3 回受賞し、「オペラハット」、「我が家の楽園」など多くの作品がある。

我が谷は緑なりき（1941）

ウェールズの炭鉱を舞台としたアカデミー作品賞の美しい物語。ジョン・フォード（1894- 1973）はこの作品を含め、アカデミー監督賞を 4 回受賞している。若き日のモーリン・オハラが光っていた。



アパートの鍵貸します（1960）

ビリー・ワイルダー（1906 - 2002）はこの作品でアカデミー作品賞、監督賞（2 回目）、脚本賞を受賞した。ジャック・レモンの味のある演技が良い。

ドクトル・ジヴァゴ（1965）

美しい映像と音楽（ララのテーマ）で有名となった。主演はオマー・シャリフ、ララを演じたのはジュリー・クリスティー。ボリス・パステルナークのノーベル文学賞作品をデヴィッド・リーン監督（1908- 1991）が映画化した。「戦場にかける橋」、「アラビアのロレンス」でアカデミー作品賞、監督賞を受賞した名監督である。

生きる（1952）

黒澤明監督（1910- 1998）の名作。死期を悟った市役所の課長が最後に市民公園を作ることに努力する物語。志村喬の「命短し恋せよ乙女」の歌が耳にこびり付いて離れない。

映画は監督の人生観がよく表れるものであり、監督好みの俳優も同じような傾向があり、固定されていることも多い。

大監督たちの多くの作品の中で「好きな」映画はまたの機会とする。

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023 年 4 月 25 日